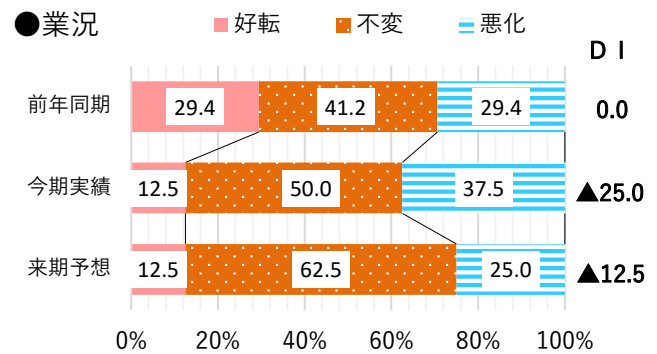


# 小 売 業

## 業況、売上、採算

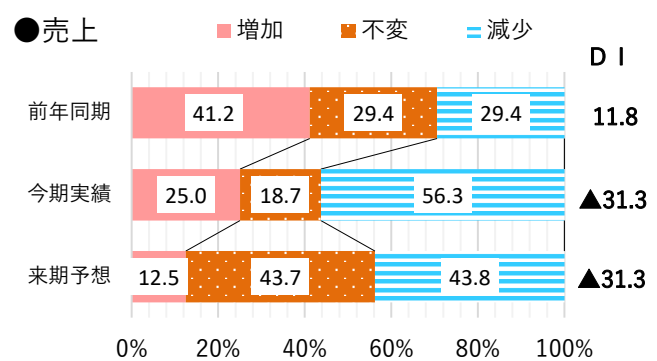
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲25.0で、前年同期（2024.7～9）と比べ25.0ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ12.5ポイント上昇すると予想しています。



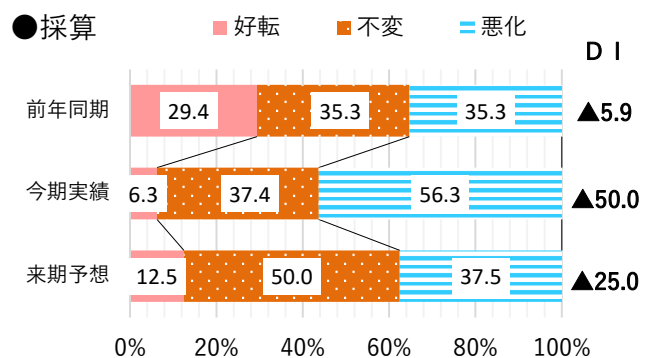
今期の売上高DIは▲31.3で、前年同期と比べ43.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ変化なしと予想しています。

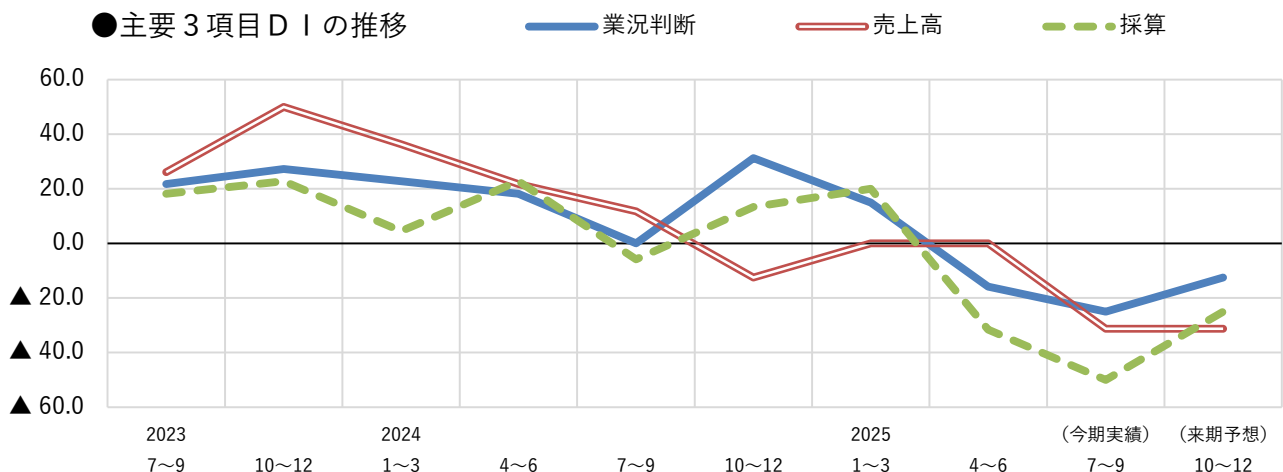


今期の採算DIは▲50.0で、前年同期と比べ44.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ25.0ポイント上昇すると予想しています。



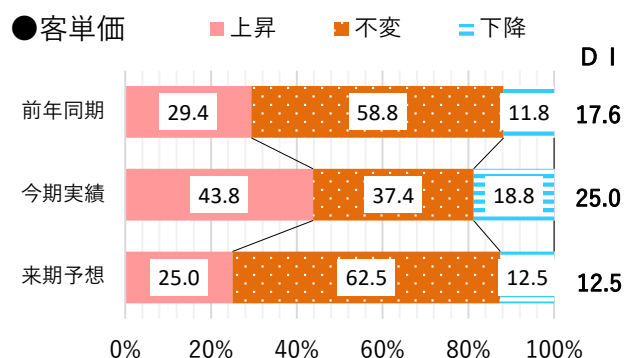
### ●主要3項目DIの推移



## 客単価、客数

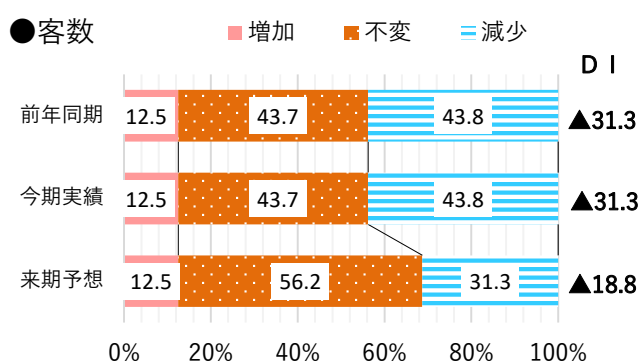
今期の客単価DIは25.0で、前年同期と比べ7.4ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは今期と比べ12.5ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲31.3で、前年同期と比べ変化なしでした。

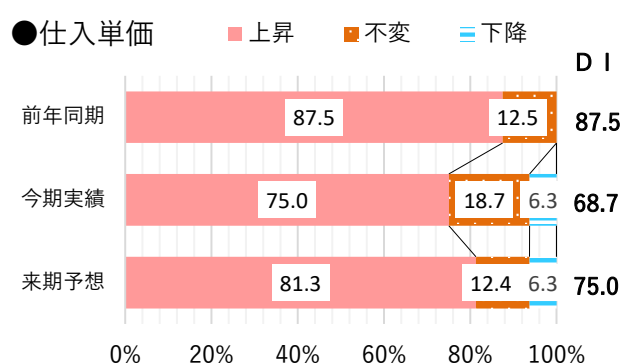
来期の客数DIは今期と比べ12.5ポイント上昇すると予想しています。



## 商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

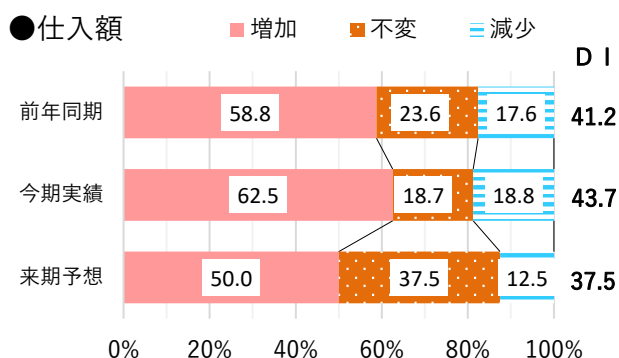
今期の仕入単価DIは68.7で、前年同期と比べ18.8ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ6.3ポイント上昇すると予想しています。



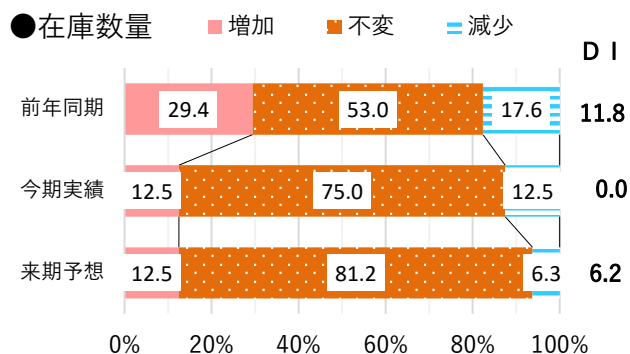
今期の仕入額DIは43.7で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期の仕入額DIは今期と比べ6.2ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ11.8ポイント低下しました。

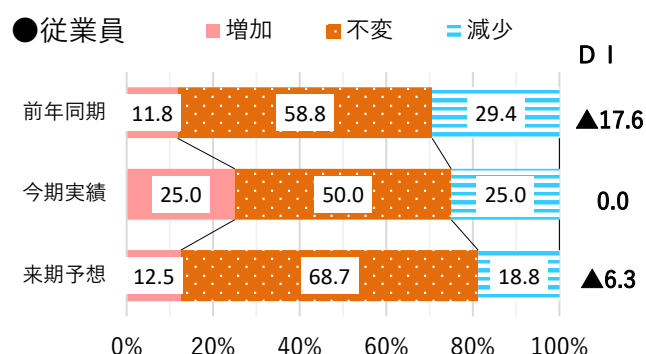
来期の在庫数量DIは今期と比べ6.2ポイント上昇すると予想しています。



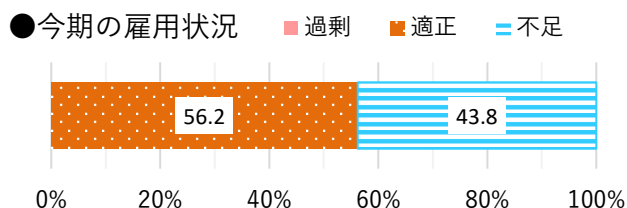
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は56.2%、不足していると回答した企業の割合は43.8%でした。



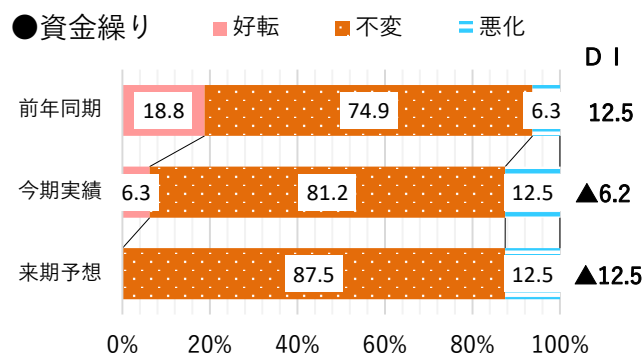
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、37.5%を占めました。

| 今期従業員数 | 今期の雇用状況 | 回答数 |
|--------|---------|-----|
| 増加した   | 過剰      | 0   |
|        | 適正      | 2   |
|        | 不足      | 2   |
| 不変だった  | 過剰      | 0   |
|        | 適正      | 6   |
|        | 不足      | 2   |
| 減少した   | 過剰      | 0   |
|        | 適正      | 1   |
|        | 不足      | 3   |

## 資金繰り、設備投資

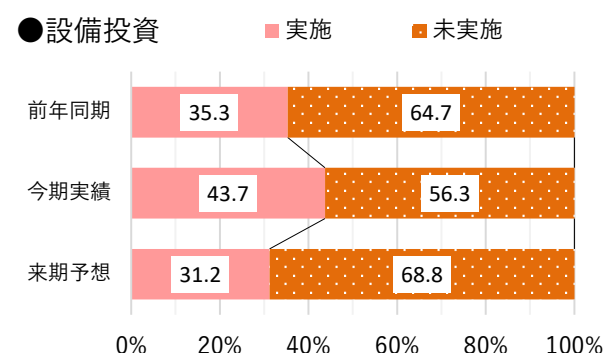
今期の資金繰りDIは▲6.2で、前年同期と比べ、18.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



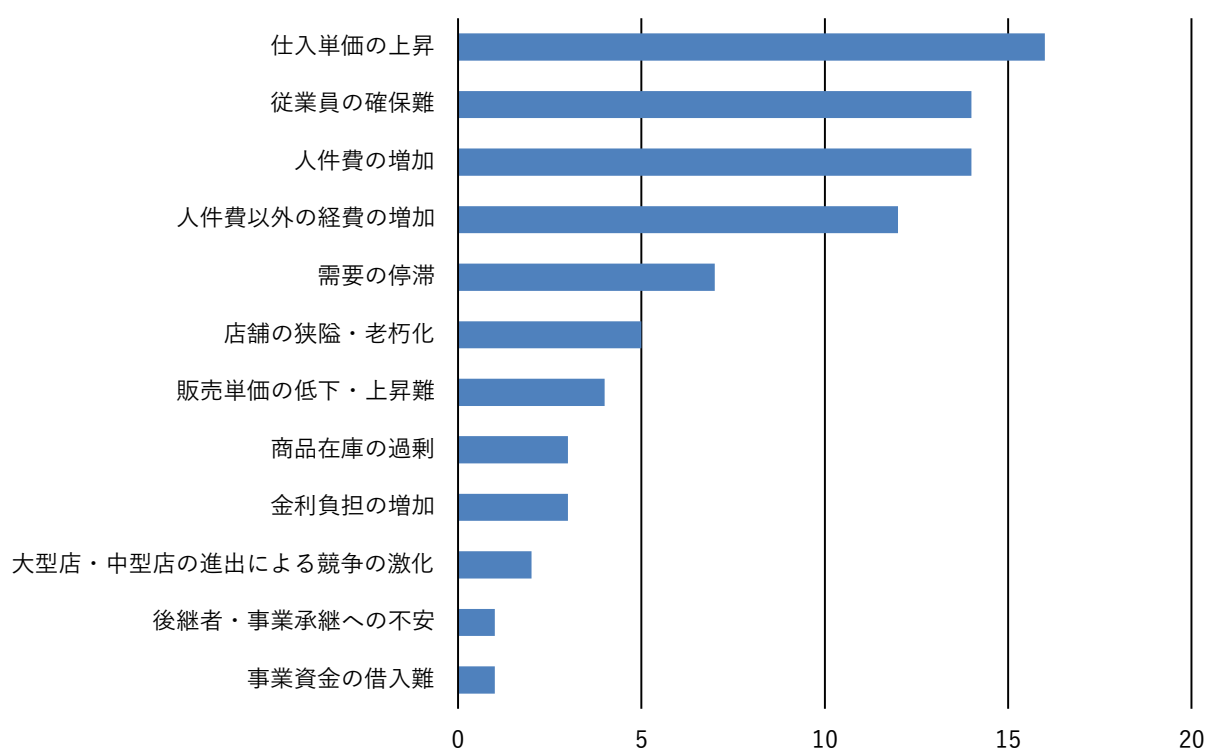
今期の設備投資は43.7%で、前年同期と比べ8.4%上昇しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「店舗」でした。

来期は26.3%が設備投資を計画していると回答しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 猛暑により家電や衣料など夏物商品は好調だったが、生鮮食品は不振。値上げが続き客単価や仕入れ額が上がっているが、メーカー条件品も年々減っており、利益率や経常利益は昨年と比べて減少。(大型店)
- 売上は前年を上回り堅調に推移した。人材確保は採用が難航し、最低賃金の上昇に伴い人件費負担は増加傾向にあるが、効率的なシフト運用と生産性向上で吸収を図っている。(大型店)
- 客数減と人手不足により商品に手をかけられなくなっており、地域がら募集しても応募が来ない。  
(大型店)
- 売上増であるが最低賃金の上昇により経費増のため、利益は不変。(ホームセンター)
- 客数、単価、利益率ともに少しだが増加している(食料品小売)
- 客数が減少した。(コンビニ)
- 原材料の仕入単価が上昇し、利益が減少したが、お盆休みの来店数は増加した。(菓子製造小売)
- 仕入値がとても高くなっているので、価格の見直しが必要だと考えている。(菓子製造小売)
- 商品納期が長期化した。(自動車小売)
- 前年の業績が良かった。(自動車小売)
- トータルするとあまり変わっていない。(携帯電話小売)

## [来期の業況について]

- 物価高により消費傾向に不透明性がある一方地域密着の取り込み強化で安定を見込む。人材確保難と人件費増に対応し生産性改善と効率経営を邁進していく。(大型店)
- 季節品の動向次第ではあるが、食品で価格が出せず客数が減っている状況と、最低賃金も大幅に上がるため今期以上に苦戦すると予測。(大型店)
- 今期と同じだがもっと悪くなると考える。(大型店)
- 売上増であるが最低賃金の上昇により経費増のため、利益は不変。(ホームセンター)
- 商品の単価の上昇が激しいため業況の見通しには不透明感がある。(食料品小売)
- 客数の減少を予想する。(コンビニ)
- 最低賃金、人件費の上昇に伴う値上げが見込まれる。(菓子製造小売)
- 商品納期が長期化しているが11月頃から順次在庫していく見込み。(自動車小売)